



環境教育

詳しくは、環境報告書の p.7～9参照

広島大学の環境に関する教養教育では、「地球科学B」と「原爆体験と表象 / 文学」について紹介しました。専門教育では、今年度は工学部・工学研究科における環境教育を取り上げて紹介しています。

教養教育における環境教育

地図、水圏、大気圏、生物圏...
地球を知ることが環境の向上や災害の備えになる...

「地球科学B」
総合科学研究科 准教授 横山 正

核利用の背景にある「物語」とは？
原爆や原発に関する表象や言説から考える

「原爆体験と表象 / 文学」
教育学研究科 准教授 川口 隆行

工学部・工学研究科における環境教育

オゾン層破壊、地球温暖化、酸性雨...
人類が持続可能な社会を実現するために...

「基礎無機化学」
(工学部第三類 専門基礎科目)
工学研究科 准教授 片桐 清文

大気の大気圏、海洋の全て～相互作用による気候変動・エルニーニョ現象について学ぶ

「自然環境システム」
(工学部第四類 専門科目)
工学研究科 准教授 作野 裕司

人間の快適さのためだけでなく、
環境負荷低減も狙った建築物設計・
計画を学ぶ

「建築環境学」
(工学部第四類 専門科目)
工学研究科 教授 西名 大作

対象を離れた場所から測定する「遠隔計測」を基礎から学ぶ

「リモートセンシング工学」
(工学部第四類 専門科目)
工学研究科 准教授 作野 裕司

化学物質を上手に使う

「グリーンテクノロジー」
工学研究科 教授 中井 智司

激甚的な公害を克服してきた日本の歴史を学び、
今なお抱える公害と対峙する

「環境保全論」
(工学部第四類 専門科目)
工学研究科 教授 大橋 晶良

キャンパスの自然紹介

キャンパスぶらり散歩 HPによる情報公開

広島大学 HP に、キャンパスの自然や風景など東広島キャンパスの見どころを3つのコンテンツに分けて情報公開しています。

キャンパスの花ごよみ
広島大学櫻曼荼羅
キャンパスの生き物

キャンパスぶらり散歩
https://www.hiroshima-u.ac.jp/about/photo_gallery

環境研究

詳しくは、環境報告書の p.10～12参照

本学の環境研究では、「キャンパス内の動植物に関する研究」をテーマに、「日本鶏に関する研究」「日本列島は両生類進化の実験場」「宮島の植物と植生に関する研究」を紹介しています。

遺伝資源として優れた日本鶏の可能性とは！
「日本鶏（にほんけい）に関する研究」
生物園科学研究科 教授 都築 政起

特別天然記念物「土佐のオナガドリ」

闘いの最中の大軍鶏（オオシャモ）

手にしているのは、「土佐のオナガドリ」の赤笹内種

絶滅と種の孤立の果てに...両生類進化の鍵を握る中国・四国地方

「日本列島は両生類進化の実験場～中国・四国地方はとくにミステリアス～」
両生類研究センター 准教授 三浦 郁夫
理学研究科 博士課程前期2年 榎垣 友哉

日本東西で遺伝的に異なるニホンアママガエル

すぐれた自然がみられる一方、外来生物の影響も危惧される日本の縮図・世界遺産宮島

「宮島の植物と植生に関する研究」
理学研究科附属宮島自然植物実験所 准教授 坪田 博美

絶滅危惧種 モロコシソウ

中国原産のナンキンハゼ

キャンパスの自然環境調査

東広島キャンパスのユスリカ

東広島キャンパスではこれまでに約150種のユスリカを確認しています。キャンパス内ではほぼ一年中ユスリカの成虫を観察することができます。キャンパス内で見られるユスリカには、きれいな川を好むものから汚い水や水田・湿地を好むものまで、様々な環境に生息する種が含まれています。小さな虫からも東広島キャンパスの環境の豊かさを垣間見ることができます。

生物園科学研究科 博士課程前期2年 児玉 敦也

ぶどう池で見られるヒゲユスリカ属の一種

社会貢献・国際貢献・学生活動

詳しくは、環境報告書の p.13～16参照

大学は、学生への教育・研究だけでなく、市民への知の提供・還元の間としてもその役割が期待されるようになってきています。本学においても、学生・教職員が、それぞれの知識・経験・能力を生かして、本学以外の組織・団体とも連携を図りながら地域・世界に貢献する活動を行っています。そして、それらの活動を通じて学生のみならず教職員も多くのことを学び、成長を続けています。また、本学の環境保全活動、普及啓発活動において、学生との協働は欠かせないものであり、学生の教育の側面からも重要なことだという認識が高まりつつあります。

社会貢献活動

2018年2月28日開催のシンポジウム
「バイオマス産業都市構想へのアクション」について

総合科学研究科(21世紀科学プロジェクト群)主催で 地域エネルギー(資源・環境)をテーマに大学や住民などの貢献や役割、推進への課題について議論することを目的にシンポジウムを開催しました。
総合科学研究科 教授 小野寺 真一

国際貢献活動

フィリピン・マニラ首都圏を流れる
バシグ川の水質浄化のための実践的研究

バシグ川の水質問題を広島大学発のGCA技術により解決し、マニラ首都圏の水環境の再生に寄与することを目的にフィリピン大学と共同で研究を進めています。
工学研究科 准教授 日比野 忠史

浄化構造体の構築状況とフィリピン TV で日本の技術として紹介されました

学生活動

KEEPの取り組み

私たち広島大学 霞清掃サークルKEEPは、学生の意識向上を目標に掲げ、主に霞キャンパス内の清掃活動を行っています。
医学部5年 安永 研人

清掃活動の様子

2017年度 学生環境委員会・サポーターの活動

広島大学学生環境委員会・サポーターは、本学において策定された「環境目標」を達成するために学生が主体となって、学内の緑化ボランティア参加等の活動を行っています。
生物生産学部4年 高野 智弘

東広島キャンパス内の植物を観察中

環境負荷削減

詳しくは、環境報告書の p.21～25参照

上水使用量が昨年度に引き続き、2012年度比10.4%減となり改善が認められました。可燃ごみ量は2015年度比では2.3%減少していますが、2013年度と同程度で、可燃ごみの削減が課題です。一方で、CO₂排出量は2015年度比で2.8%増加し、コピー用紙購入量も前年度比で3.9%増加しました。これらの課題については、引き続き取組のさらなる強化が求められます。

エネルギー消費状況と水使用量、廃棄物発生量の推移



マテリアルバランス

| INPUT | | | 合計 | |
|-----------------|----|------------------------|--------------|--|
| 種類 | 種別 | | | |
| エネルギー (熱量換算) | 電気 | 833,415 GJ | 1,008,960 GJ | |
| | 重油 | 15,441 GJ | | |
| | ガス | 160,104 GJ | | |
| 水 | 上水 | 607,784 m ³ | | |
| | 物質 | | 221,106 kg | |

| OUTPUT | | | 合計 | |
|-----------|----------------------|--------------|--------------------------|--------------|
| 種類 | 種別 | | | |
| エネルギー | 温室効果ガス ^{*1} | | 68,417 t-CO ₂ | |
| | 水 | 下水 | 513,842 m ³ | |
| | 物質 | 一般廃棄物 | 906,658 kg | 2,772,321 kg |
| 産業廃棄物 | | 1,048,297 kg | | |
| 特別管理産業廃棄物 | | 817,366 kg | | |

循環利用

| 種類 | 種別 | 合計 | 再利用率 |
|----|-------|------------------------|------|
| 水 | 中水使用量 | 106,595 m ³ | 18% |
| | 雨水使用量 | 7,815 m ³ | |
| 物質 | | 110,878 kg | - |

*1 温室効果ガスの排出量は、2017年度排出係数で算出
*2 廃コピー用紙を回収し、製紙工場に搬入する量及び破砕紙を資源化物として売り出した量

ごみの分け方・出し方と廃棄物の減量・再資源化

「混ぜればごみ、分ければ資源」の言葉通り、ごみは出す人がきちんと分別すれば、資源として再利用することができます。

東広島・霞キャンパスでのゴミの分別法・再資源化についての最新のポスターは下のサイトからダウンロードできます。

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/about/initiatives/kankyo>

